

(様式3)

平成27年2月19日

(データ配信日 平成27年2月19日)

教育長様

代表者 校園名(大阪市立榎本小学校)  
校園長名(勝本 孝夫)印  
(電話 6961-0461 FAX 6961-5674)

申請者 校園名(大阪市立榎本小学校)  
職名・名前(首席 南野 勇)印  
(電話 6961-0461 FAX 6961-5674)

代表者校 学校事務職員名(川原 正)

### 平成26年度「がんばる先生支援」事業報告書

平成26年度「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

<p>1 研究コース等 (個人・グループ)研究 (基礎・今日的課題)研究コース ※( )内はいづれかに○を記入してください。</p>
<p>2 研究テーマ 「自尊感情を高め、人生を支える体力を育成する」 ～できた！おもしろい！さらに挑戦！～</p>
<p>3 研究目的 本校は、「全国学力学習状況調査」では、国語・算数ともほぼ全国平均を上回っているが、「運動能力・運動習慣等調査」では、ほとんどの種目で全国平均を下回るという深刻な状況である。また学校アンケートに見られた自尊感情の低さも憂すべき課題である。 本校には「えのもとの森」や「土俵」といった地域から寄贈された、熱く、思いの強い教育施設がある。また、校区内に幼稚園から高等学校までの教育機関があり、特にスポーツ分野において顕著な実績のある汎愛高校とも日常的に連携を図っている。このような本校独自の財産および環境を活かし、地域住民・近隣学校園との相互参画により、生涯にわたって運動を楽しみ親しむ体力を育成したいと考えた。 また日常的な運動や遊び、地域交流、最後まできちんと片づけることなどを通じて、体力のみならず、思いやりの心や社会への帰属意識、規範意識、自尊感情を高めたい。 本研究の過程においては、大学教授等の専門家や先進事例に学び、教員の指導力・資質の向上にもつなげたい。</p>
<p>4 取り組み内容(具体的に取り組んだ研究内容を記述ください)</p> <p>(1)教員の指導力・資質向上の取組 ・大阪教育大学教授による授業研究会での指導助言(2回)、研究発表での講演 ・第53回全国学校体育研究大会への参加(2名)と、校内での還元研修の実施 ・研修会で紹介された指導参考書籍を購入し、校内研修に活用</p> <p>(2)遊びのなかから運動の楽しさを味わわせ、日常的に運動に親しむことのできる場の工夫 ・「えのもとの森」に伐採材でアスレチックを作成し、自然と親しみながら体力づくりに取り組んだ。 ・日本けん玉協会より「けん玉名人」を講師として招聘し、全校あげてけん玉を楽しんだ。</p> <p>(3)「土俵」を活用した体力づくりの取組 ・「土俵」を保全し、西日本実業団相撲連盟より講師を招聘。相撲の歴史や礼法、基本動作を学び、「手押し相撲」「ケンケン相撲」といったすもうあそびなどで、相撲特有の動きの楽しさを味わった。 ・相撲体験で教わった四股や蹲踞などの基本動作を体育科の準備運動に取り入れ、体幹の鍛えやバランス力の強化に取り組んだ。</p> <p>(3)「できた」という達成感、「もっとがんばりたい」という意欲を高める取組 ・業間を利用して運動の習慣化を図った。なわとびは易しい跳び方で跳び続けること、かけあしは一定のペースで走り続けることをめあてとし、苦手な子も楽しんで取り組めるようにした。 ・さまざまな種類の「がんばりカード」を作成し、個人の目標にあったものを使用して自主的に取り組めるようにした。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「えの小ギネス」を創設し、多くの分野にわたって一人一人の子のがんばりを表彰することで、自尊感情の高まりを図った。(例:1分間もしかめ、1分間連續逆上がりなど)</li> <li>・段ボール製の手づくりハーダルや、あたっても痛くないボールの活用により、苦手な子の恐怖心を取り除き、思い切って挑戦できることで、成功体験を増やせるように工夫した。</li> </ul> <p>(4)社会への帰属意識を高め、体力・運動能力の向上につながる地域交流の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恒例行事である地域との「昔あそびの会」に、かんぽつくり、ゴムとび、けん玉など、体力づくりの要素をこれまでより多く取り入れた。</li> </ul> <p>(5)生涯体育の観点からの、幼・小・中・高の校種間連携の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・榎本幼稚園、今津中学校と、運動会や遊び、クラブ見学会や小中連絡会等を通じて連携を図った。</li> <li>・(1)の全国大会参加のうち1名は、幼稚園の「からだを使った遊び、仲間と楽しむ遊び」分科会に参加し、幼稚園から小学校への円滑な接続について考えた。</li> <li>・汎愛高等学校武道科と連携し、「なぎなた体験教室」を実施した。</li> </ul> <p>(6)準備から片づけまで責任をもって安全に行え、規範意識の高まりにつながる環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール、竹馬、一輪車、ハーダル、とび箱の整理用具を購入し、片づけのルールを視覚化した。</li> </ul> <p>(7)学年の実態に応じた、子どもにつけたい力を伸ばす取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生:バランス力を養うため、子どもの好きな短い音楽にのせた運動を日常的に実施した。</li> <li>・2年生:遠投力を養うため、柔らかくつかみやすいボールを利用してボール運動を行った。 肩関節の可動域を広げるストレッチも1年を通じて実施した。</li> <li>・3年生:走力を高めるため、膝や股関節を柔らかくするストレッチを、1年を通じて実施した。</li> <li>・4年生:持久力、敏捷性を養うため、1年を通じてなわとび運動に取り組んだ。</li> <li>・5年生:走力を伸ばすため、バーピー運動、柔軟体操、体幹運動を行った。</li> <li>・6年生:柔軟性を養うため、ジャックナイフストレッチを中心としたストレッチ運動を継続的に行った。</li> </ul> <p>(8)ICT機器等を活用した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物や視聴覚機器を用い、運動のポイントや自分の動きを視覚化した。自分のフォームをその場で客観的に確認でき、次の練習に生かせるようにした。</li> </ul> <p>(9)言語活動を取り入れた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループでの話し合い活動、作戦会議などの時間を重視し、自分の良さや友だちの良さを多く見つけられるようにした。</li> </ul>
--

## 5 具体的な検証方法と明らかになった成果

### (1)「運動能力・運動習慣等調査」

4月実施の結果を受け、重点的に取り組むべき種目について12月に再実施したところ、全学年で記録が伸び、5つの学年で平成25年度の全国平均を上回った。

### (2)運動アンケート(児童対象)を年2回実施し、結果を比較

「運動することが好き」に「はい」と回答した数は、どの学年も微増であった。しかし「はい」の理由には、「外で遊ぶのが楽しい」「できないことができるようになると嬉しい」など、自尊感情の高まりが感じられた。

### (3)学校アンケート(児童・保護者対象)を実施し、昨年度の結果と比較

「学校に行くのが楽しい」に「よくあてはまる」と回答した児童が7ポイントアップしたことは特筆すべき結果である。「子どもは楽しく学校へ行っている」「よくあてはまる」は4ポイントアップであった。また、ほとんどの家庭が子どもに朝食を食べさせていること、取組の成果と言える。

### (4)けがによる保健室への来室数と病院への搬送数の比較

- ・けがによる保健室来室数:4月233件、5月301件⇒12月140件、1月143件
- ・タクシーでの病院への搬送数:平成25年度 9件⇒平成26年度4~1月 1件

以上のような取組により、「できた」喜びを味わいながら、楽しく主体的に運動に取り組む姿が多くみられるようになった。また専門家や全国の先進事例から学び、計画的に研修・研究活動に取り組んだことにより、教員が、子どもの確かな変容につながる指導力を身につけることができた。

## 6 研究発表等を実施した日・場所・参加者数

(日程) 平成27年1月30日 (場所) 大阪市立榎本小学校 (参加者数) 約100名

※今日的課題研究コースは必ず記入

上記の内容を原則としてA4判2ページで作成し、平成27年2月27日までに大阪市教育センター「がんばる先生支援担当」まで提出すること。(研究内容、資料等を添付すること)